

# 光星・織笠 逆転満塁弾



【東奥義塾—八学光星】3回裏、八学光星2死満塁、逆転の満塁本塁打を放った織笠が、先に生還した野呂とともにガッツポーズ＝はるか夢

八学光星の中軸・織笠の豪快な一発が勝利を呼び込んだ。三回、2死満塁の好機。初球から高めの直球を力強くたたき込むと、打った球は風に乘って放物線を描き左翼席へ。公式戦で自身初となる満塁本塁打で逆転に成功し、生還した後は仲間からはじける笑顔で迎えられた。

「外野手に取られるかと思っただが、伸びてくればよかった。入った瞬間はほっとした」と顔をほころばせた織笠。変化球が鋭い東奥義塾の投手陣を意識し、ボール球を振らないことを徹底していたという。

**ハイライト** 光星打線は3回裏で弘前東相手に5安打と活発に打ち、織笠自身も3打数1安打の打点なしと納得いかない結果だった。「四番の野呂と声を掛け合い、今日は絶対に打つぞと強い気持ちで試合に入った。野呂も1安打1打点を挙げ、中軸の意地を見せつけた。

一方、チーム全体では準々決勝でも東奥義塾を下回る5安打と、持ち前の打線は鳴りを潜め、そのまま、仲井監督は「勝つに不思議の勝ちあり。相手投手の緩急や投球術に完全に翻弄（ほんろう）されている」と苦笑い。会心の一発を復調の兆しにしたい織笠は「もう1打打ちまわって勝利に貢献したい」と次を見据えた。（野村通）

## 東義 序盤の失点重く

【評】八学光星は2点、越え満塁本塁打で逆転し、3回裏、代打・洗平を、投げては、洗平兄弟の二塁打と3連続四死を含む4人の連続で逃げ球による押し出しで1点、切った。東奥義塾は初回、5連

## 光星中軸奮起 勝利呼ぶ

打て2点を先制。八回は「持ち、父がかなえられなかった甲子園出場の夢を追いかけろ兄弟が、田が制球に苦しみ、序盤、今大会で初めて継続した。失点が大きく響いた。

光星、洗平兄弟が継続した。弟の比呂（ひろ）は1年、元中日投手の洗平は、元中日投手の洗平は、元中日出身、光星学院（現八学光星）出身として四回からマウンドに上った。

比呂は「悔いが残ったけど兄弟が打ってくれて心強かった」と感謝。歩入は「代打は予想外だったが、流れを持って来られてよかった。打球では四死球が目立ったので、もっと制球を安定させたい」と気を引き締めた。

第104回 全国高校野球 青森大会 第9日

第104回全国高校野球選手権青森大会は9日の18日、弘前市のはるか夢球場で八学光星と東奥義塾の準々決勝（試合名）を行い、4強が出そろった。東奥義塾に2点を先行された八学光星は三回、洗平が二塁打で出塁すると、3連

連続四死球で1点を返し、続く織笠の満塁弾で逆転した。五回に織笠の犠飛、八回には代打青木の適時打でさらに1点を追加。東奥義塾の反撃を2点に抑え、7-4で逃げ切った。第2試合に予定されていた八学光星—八学大一の準々決勝は、八学大一が「学校事情」を理由に辞退したため、八学大一の不参加となった。19日は休養日で試合がなく、20日に同球場で青森山田—八学大一、八学光星—聖愛の準決勝2試合を行う。（本紙取材班）

山田高—工大一 4強出そろおう

光星—聖愛

あすの試合  
（左のチームが一塁側）  
◇弘前市はるか夢  
▷準決勝  
青森山田—八学大一（11・0）  
八学光星—聖愛（13・30）

を引継ぎ、3回裏に1安打無失点に抑え好救援した。打っては三回に代打で二塁打を放ち反撃ののろしを上げた。